

公益財団法人みらいファンド沖縄

沖縄学生 SIFE ワールド カップ派遣支援基金

2010 年度～2012 年度 報告書

本報告書は、みらいファンド沖縄の「じぶん基金」として 2010 年に設置された、「沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金」の 3 年間を振り返る事業報告書です。

前半は、『本基金の紹介や活動実績』、『3 年間の寄付の動き』をはじめ、基金終了後に行われた『座談会』のようすを掲載いたしました。後半は、資料編として、基金広報チラシやメディア紹介記事の掲載があります。

「沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金」は本報告書の発行をもって終了いたしますが、沖縄の学生の SIFE に関わる取り組みは継続されます。彼らにエールを送るとともに、本基金へご寄付くださったみなさまに深く感謝申し上げます。また、本基金のしくみにご理解いただき、SIFE に関わる沖縄の学生に的確なアドバイスをしていただきましたアドバイザーの方々にも御礼申し上げます。

沖縄学生 SIFE ワールドカップ 派遣支援基金報告書

目次

沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金について.....	1
3 年間(2010 年度～2012 年度)の寄付の報告.....	1
■「沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金」の主な活動実績.....	1
■この基金への寄付.....	2
■じぶん基金とは.....	2
「沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金」振り返り座談会.....	3
各年度の助成について.....	7
■2010 年度.....	7
■2011 年度.....	12
■2012 年度.....	17
資料編	
【資料 1】「沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金」特設ウェブページ.....	1
【資料 2】「沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金」チラシ.....	2
【資料 3】みらいファンド沖縄基金紹介冊子『寄付なび 2011 秋』号掲載ページ.....	4
【資料 4】メディア紹介記事(新聞記事掲載).....	5



沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金について

SIFE(サイフ/ Students In Free Enterprise)は、世界 39 カ国、1600 の大学が参画している、教育に関する世界で有数の国際的 NPO です。大学生による社会的な事業の「成果」を中心に評価する「SIFE ワールドカップ」が大きな注目を集めており、日本からも毎年参加しています。(2012 年 12 月現在)

沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金は、SIFE に参画する沖縄の学生を支援することで、世界的な視野を持ち、沖縄を支える人材を輩出するため、設立されました。この基金に寄せられた寄付金から、SIFE 世界大会の参加・視察等にかかる移動費を、2010 年から 2012 年までの 3 年間助成しました。



3 年間（2010 年度～2012 年度）の寄付の報告

■「沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金」の主な活動実績

- 2010/08/24 SIFE World Cup 2010 視察費助成プログラムの募集開始（8/30 まで）
- 2010/09/09 基金設立の記者発表（於 県庁記者クラブ応接室）
- 2010/10/10～10/12 SIFE World Cup 2010 開催【2010 年度派遣】
- 2010/11/23 SIFE World Cup2010 視察報告会（於 県総合福祉センター）
- 2011/08/03 SIFE World Cup2011 視察費助成プログラムの募集開始（8/23 まで）
- 2011/08/21 SIFE Japan 国内予選 2011 報告会（於 沖縄国際大学厚生会館）
- 2011/10/03～10/05 SIFE World Cup 2011 開催【2011 年度派遣】
- 2011/11/03 SIFE World Cup 2011 視察報告会（於 沖縄国際大学厚生会館）
- 2011/11/26・27 「JICA 沖縄国際協力・交流フェスティバル 2011」ブース出展
- 2012/07/17 SIFE Japan 国内予選 2012 報告会（於 琉球大学産学官連携推進機構）
- 2012/09/30～10/02 SIFE World Cup 2012 開催【2012 年度派遣】
- 2012/08/01 SIFE World Cup2012 視察費助成プログラムの募集開始（8/22 まで）
- 2012/11/10・11 「JICA 沖縄国際協力・交流フェスティバル 2012」ブース出展
- 2012/11/12 SIFE World Cup2012 視察報告会（於 琉球大学産学官連携推進機構）
- 2012/12/01 3 年間振り返り座談会（於 みらいファンド沖縄事務局）

注) SIFE 2012 World Cup のオープニングセレモニーで、SIFE は新しいブランド名に生まれ変わり **enactus【Entrepreneurs act us】**となったことが発表されました。

——SIFE の拡大に伴い、国によっては Free Enterprise という言い回しが浸透しない国や、SIFE という発音が現地言葉で受け入れがたい意味合いで取られてしまうといったことも起こってきました。今後よりいっそう多くの国や文化になじんでゆくためにも、SIFE というブランド名を変更することとなりました。——

(enactus Japan HP より)

■この基金への寄付

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	計
助成を受け派遣した人数	3 人	2 人	1 人	6 人
寄付受付額※	633,110 円	170,662 円	170,000 円	973,772 円(25 件)
助成交付額	370,235 円	300,000 円	150,000 円	820,235 円

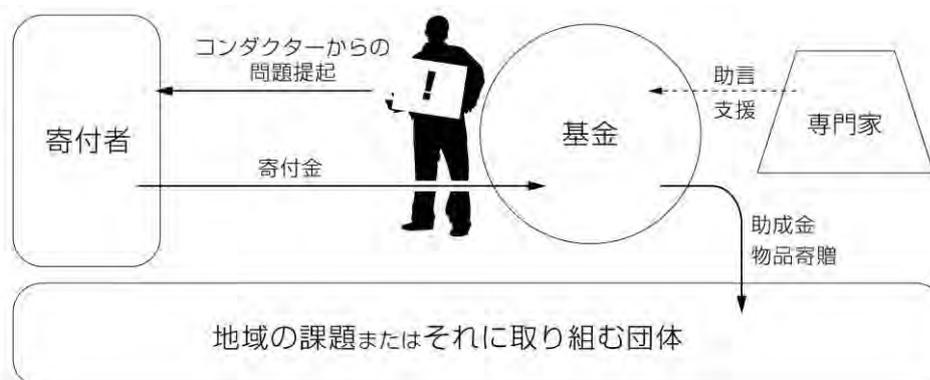
※【寄付受付額】=【助成交付額】+【基金運営費】

「基金運営費」は、助成公募にかかる事務費、報告会開催費、広報チラシ制作費、本報告書作成および郵送費などに充てられました。

■じぶん基金とは

みらいファンド沖縄が提案する「個人創案型基金」です。

「生活する個人」には日々の暮らしの中で獲得する専門性があり、そこから気付ける身近な社会的課題もあります。「じぶん基金」とは、このような「気づいた個人」を支えながら基金づくりをし、課題解決のチャレンジを応援していくための基金です。



<この基金の特徴>

- * コンダクターの設置……基金の創案者は、コンダクター(指揮者)として社会の共鳴を起こす中心的役割を担います。
- * アドバイザリーボードの設置……基金に集まった寄付金で、事業の実施や助成を行う際には、専門的な知識やネットワークを有する機関/団体/個人により構成される「アドバイザリーボード」からの助言を受け、寄付金が公益的でより有効な場所へ届くようお手伝いします。
- * 寄付金だけではなく、物資や人材もつなぐ……寄付金以外にも、物品の寄贈や専門的人材の参加などでもできるかぎり受け入れ、この社会的課題の解決に向けてさまざまなひとびとの参加を促します。

「沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金」は、「じぶん基金」の位置づけで、社会課題に気付いた当時大学生だった牧志朝英さんがコンダクターとなり、社会的課題の解決に向けて中心的な役割を担ってきました。



「沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金」振り返り座談会

2010年8月の「沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金」設置から、2012年11月の基金終了までの3年間を、【寄付者・支援者】、【選考委員】、【視察者】等、それぞれ異なる立場で SIFE に関わった上記の参加者に振り返ってもらい、意見をいただきました。



日 時: 2012年12月1日(土)16:30~18:30

会 場: みらいファンド沖縄事務局(那覇市首里当蔵町1-11-20 新垣ビル 1F)

参加者:

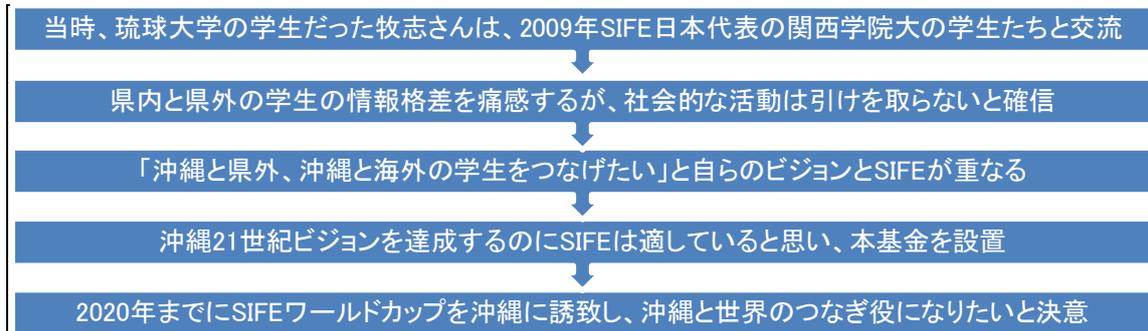
- 東濱 克紀さん (興南中学校数学教諭) 座長
- 宮里 大八さん (琉球大学産学官連携推進機構 特命准教授)
- 稲垣 暁さん (沖縄大学地域研究所 特別研究員) 終了20分前より参加
- *島袋 大地さん (沖縄大学教育専攻科 2011年度ワールドカップ視察)
- *上原 大明さん (沖縄大学法経学部法経学科3年次 2011年度ワールドカップ視察)
- *外間 有里さん (琉球大学法文学部人間科学科3年次 2012年度ワールドカップ視察)
- 波平 雄翔さん (沖縄県粟国村集落支援員 沖縄大学卒 2011年国内大会出場)
- 玉城 真奈美 (公益財団法人みらいファンド沖縄スタッフ) 記録

*印は、本基金の助成を受け渡航および視察した者

■「沖縄学生SIFEワールドカップ派遣支援基金」設立の経緯と目標

はじめに、本基金のコンダクターである牧志朝英さんが不在のため、今回の座談会で座長を引き受けていただいた東濱さんより、本基金の設立に至る経緯と当初の目標等を説明いただきました。

★本基金コンダクターである牧志朝英さんの基金設置に至る経緯



基金を設置し、コンダクターとなった牧志さんは 次のような基本理念のもと、沖縄の学生を連れ、初めての SIFE ワールドカップ 2010 の視察を実現させることになりました。

SIFE ワールドカップ視察 基本理念

沖縄が世界 40 カ国以上の若者の国際交流の拠点となる
2 カ国語以上話せる次世代地域リーダーを育成する
企業・行政・NPO の垣根を越え、沖縄経済の自立に貢献する

■「沖縄学生SIFEワールドカップ派遣支援基金」を振り返って

次に、本基金の 3 年間を振り返り、良かった点、改善点などを挙げていただきました。

良かった点

- この基金のおかげで「沖縄を変えよう！変えたい！」と思う人が、増えたと思う。
- SIFE に関わったおかげで、世界観が広がっただけでなく、クライテリアを意識するようになった。自己満足でやるのではなく、基準をもって課題解決をしようと取り組めるようになった。
- SIFE に関わった沖縄の学生が、この 3 年間で増えたということでは、成功モデルだったのではないかな。

反省点・改善点

- ファンドレイザーの担い手の認識が弱かったと思う。コンダクターとの関わりや役割もしっかり把握していなかったため、どうファンドレイズするべきか、誰がその役割を担うのかがあいまいだった。
- そもそも基金と学生の関わり方をどうするかを明確にしないまま 3 年間進めていたというのは反省点である。
- 学生である牧志さんが基金をスタートさせたから、関わるのは学生。それにどう社会人が関わるべきかしっかり役割を決めるべきだった。
- ワールドカップ視察費だけではなく、国内大会派遣ということも視野に入れるべきだったのではないかな。名称も SIFE から Enactus へ変わったので、3 年で一度リセットし、次へつなげるしくみが必要。

i) 活動の指針としての審査基準のこと。「経済的、社会的、環境的要因を考慮し、生活の質と生活水準を向上するためにビジネスと経済のコンセプトを使った起業家的アプローチで、効果的に課題を持つ人をエンパワーメントしたか」

- 基金の目標として、「沖縄へ世界大会の誘致」があったと思うが、学生やその周りにいるサポーターの具体的な動きが弱かったように思える。目標を達成するための具体的なアクションが見えないままだった。
- 視察から帰り、「行ってきました！よかったです！」というような形だけの報告会が続いたのでは、ステップアップにならない。報告会のあり方について再検討すべきだった。

■参加者の感想と今後について

最後に、集まっていた参加者へこれからの SIFE (Enactus) の取り組みについて語っていただきました。



自分は、基金の部分に関われるかどうかは別として、学生プラスという団体があるので、そこで今まで学んだことを還元できればと考えている。ファカルティーアドバイザー的な立場で、プレゼンの仕方をアドバイスできると思うし、そういったアプローチができればいいと思っている。個人的には来年(2013 年国内大会)に出たい。【波平雄翔さん】



今後も沖縄チームには国内大会に参加してもらいたいが、自分が来年(2013 年)沖縄から離れることで、県外から沖縄チームをどのようにサポートできるか考えている。スカイプやメールでつながることができるので、1 年は後輩育成という立場で支援したい。関西圏でもネットワークを広げ、Enactus 日本事務局も盛り上げたいと思っている。【島袋大地さん】



これまで熱い思いのある先輩たちと国内大会に出場した。自分も先輩方と同じ思いはあるが、周りはそのようでない。現状を考えると、来年大会に出場できるかわからないが、もっと Enactus の活動を活発にしていこうという気持ちは十分あるので、出場できそうな学生団体をこれからも育てていきたい。【上原大明さん】



基金の助成を受け視察する前に、自分なりの目標として決めていたのは、「持続した関わりのための基盤を作る」ということ。それを達成するために報告会終了後も、後輩の育成に力を入れている。2013年4月からの半年間は沖縄にいないが、帰ってくるまでに、Enactus の活動が盛り上がっていることを信じて、沖縄での学生の人材育成に専念したい。【外間有里さん】



沖縄の学生が県外や世界の同年代の学生と交流することで、視野を広げていくことは大事であると常に感じている。個人としては、何らかの形で今後も学生のサポート続けようと思っている。組織としては、沖縄に事務局を誘致するかどうかも含め、Enactus Japan 事務局の今後の運営や体制について協議中である。いずれにしても、国内に Enactus のような大会はあったほうがいだろうし、引き続き関わっていくつもりだ。【宮里大八さん】



高校教師という立場を通して、ポテンシャルの高い高校生に対して多くのことを伝えることができる。大学生の魅力や「大学って何をするとところ?」といった疑問に答えられるような内容を高校生に伝えることが重要だと思っている。今後も、大学生の活動を高校生に発信することによって、「沖縄の大学ってこんな魅力があるんだ!」と思えるようになるのではないかと。組織としては、Enactus 沖縄支部という形で沖縄の大学生と関わっていきたいと思う。

【東濱克紀さん】



学生には、先を見て行動できるようなセンスを身につけてほしいと思っている。寄付者は学生に対し期待し、投資をしようとお金を託す。寄付者にとっては生活の充実につながるもの、また沖縄の将来にどうつながるのかを、もう少し具体的なイメージとして示してもらえると賛同者が増えるのではないかと。そのあたりを学生には強化して欲しいし、一緒に考え、アドバイスしていこうと思っている。

【稲垣暁さん】



各年度の助成について

■2010 年度

(1) 選考委員

- ・国立大学法人 琉球大学産学官連携推進機構 特命准教授
産学官連携コーディネーター 宮里大八氏
- ・特定非営利活動法人ソーシャルデザインファンド 代表理事 金森康氏
- ・株式会社レキサス 代表取締役社長 比屋根隆氏

(2) 選考結果

助成決定者数： 3 人(応募総数 6)

(3) 助成決定者

- 牧志 朝英 (琉球大学 観光産業科学部 3 年次)
- 向井 健太郎 (琉球大学 理学部 4 年次)
- 中村 晋一郎 (沖縄国際大学 産業情報学部 4 年次)

(4) 国内大会出場校とその結果

- 優勝校： 滋賀大学
- 準優勝校： 神戸芸術工科大学
- ルーキー賞： 琉球大学

(5) ワールドカップ開催国およびスケジュール

大会開催日： 2010 年 10 月 10 日～12 日
会 場： アメリカ合衆国(ロサンゼルス)

一 結 果

1 位:エジプト
2 位:中国
3 位:アメリカ
4 位:インド

10 月 8 日 ロサンゼルス到着

10 月 9 日 Claremont 大学訪問

ノートンサイモンミュージアム訪問

リトル東京訪問

10 月 10 日 【大会 1 日目】 カルチャーフェア&オープニングセレモニー

10 月 11 日 【大会 2 日目】 予選、北米県人会との交流会

10 月 12 日 【大会 3 日目】 準決勝・決勝 / 閉会式

ロサンゼルスを出発


【報告】
沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金
『SIFE World Cup in Los Angeles 視察報告会』

■日時：2010年11月23日(火) 14:00～16:30

■場所：沖縄県総合福祉センター403 研修室

■参加者数：34名、学生スタッフ6名

■主催：一般財団法人みらいファンド沖縄

■企画・運営・視察報告：

牧志朝英（琉球大学3年次 観光産業科学部 産業経営学科）

向井健太郎（琉球大学4年次 理学部 海洋自然科学課）

中村晋一郎（沖縄国際大学4年次 産業情報学部 企業システム学科）

■概要

助成を受け、SIFE ワールドカップ 2010 を視察してきた3名の学生が自己紹介し、まず日程の振り返りを行いました。SIFE ワールドカップの文化交流、予選、決勝といったスケジュールに加え、周辺の時間を活用して訪問したリトル東京や北米県人会の報告もなされました。

後半は、視察によって得た学びをもとに、各々の描く今後のビジョンについて発表があり、視察に同行した、産学官連携コーディネーターの宮里大八氏からのアドバイスもありました。

最後に、本基金のコンダクターである牧志さんからは、沖縄においては、学生の社会的活動と企業・行政と間に距離感があり、学生の活動が育まれる上での課題となっているとのことから、次年度、SIFE 沖縄プレ大会を実施することを通して繋がりを築き、現状を変えていきたいとの表明がありました。

■詳細
（1）視察日程の振り返り

SIFE の仕組みのおさらいや、大会前後の時間で得ることができた体験を含め、視察を通しての日程を振り返りました。

10月8日：ロサンゼルス到着

10月9日：Claremont 大学訪問

ノートンサイモンミュージアム訪問

リトル東京訪問

10月10日：SIFE World Cup 開催

（文化交流会、開会式）

10月11日：SIFE World Cup

（予選リーグ）、北米県人会との交流会

10月12日：SIFE World Cup

（準決勝リーグ、決勝リーグ、閉会式）

ロサンゼルスを出発

□周辺地の視察について

到着した一行はまず、ピーター・F・ドラッカーが開校したClaremont 大学や、リトル東京を訪問しました。この他、北米県人会の方々にも交流に応じていただき、意見や情報の交換のほか、様々な話題で話が尽きなかったとのことでした。



▲北米沖縄県人会との交流（視察者より提供）

□リーグ開催までのプログラムについて

- ・リーグ開催の前には、大きな文化交流大会があり、各国の学生からは、自国の文化に対する意識の違いを感じた。
- ・開会式は予想を越える熱気に溢れ、各国の一流企業が協賛していた。一方で、日本からの企業協賛はなかった。



▲交流会について報告する向井さん

□予選リーグについて

- ・出場基準を満たすため、テーマに「環境」「教育」を取り入れている国がほとんど。
- ・各国のプレゼンテーションの質は高く、英語も堪能であった。
- ・国を挙げての支援も見られ、プロジェクトに協力する企業も多い。
- ・大会オブザーバーが多い国は応援によってプレゼンが美しく見え、勝ち残りやすい。



▲予選リーグの様子（視察者より提供）

□決勝リーグについて

- ・先進国の活動概要は日本と似ている部分がある一方で、途上国のテーマは貧困などが多かった。
- ・決勝戦は、メインの大会場にて多くの聴衆を前にプレゼンを行う。
- ・応援団（オブザーバー）・聴衆双方が活気づいて、スタンディングオベーションも見られた。



▲優勝したエジプトのチーム（視察者より提供）

(2) それぞれの学びと夢

後半は、各メンバーが視察を通して学んだこと、今後の夢について発表を行いました。(抜粋)

中村晋一郎 (沖縄国際大学 4 年次 産業情報学部 企業システム学科)

- ・SIFE ワールドカップでは、情報発信の大切さ、学生が社会的活動しやすい環境の大切さ、自国や地元を知る重要性を学んだ。
- ・将来は国際的に活躍する人材になり、沖縄を世界の中心となる国際観光都市にしたい。
- ・グローバルな視点で地域に貢献する人財を輩出する仕組みを作りたい。

向井健太郎 (琉球大学 4 年次 理学部 海洋自然科学課)

- ・SIFE ワールドカップでは、英語によるコミュニケーション能力の高さ、啓発的な活動や教育によるビジネスが多いこと、大学生が他国のために活動していること、産官学の連携が密接に出来あがっていることを実感した。
- ・今後は海外の大学院や職場を研究し、地域の求める技術を開発する技術者になるとともに、そのような研究者ネットワークに参加あるいは設立したい。
- ・日本人の深層的な「幸せ」を調べ、見付けたい。

牧志朝英 (琉球大学 3 年次 観光産業科学部 産業経営学科)

- ・SIFE ワールドカップの運営体制に関しては、国・企業・学生に win-win の関係が築かれていることや、国を上げて支援する仕組みの重要性を感じた。
- ・海外の学生に接して、他国への敬意が重要であることや、国の代表として誇りを持っていることを感じた。また、どんな情報を知っているかではなく、どんな課題意識、どんな成果をもたらしたかが問われた。
- ・各国のプロジェクトからは、社会課題と正面から向き合う重要性を感じた。各テーマからは、子

供の貧困や環境破壊、地域過疎化などの課題の深刻さを感じた。

(3) 今後のプラン

最後に、沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金のコンダクターでもある牧志さんより、今後のプランについての発表がありました。

- ・これから解決したい課題は、県内大学生と、社会(企業・行政・NPO)との距離感の遠さ。特に、地域で草の根で活動する自治会・NPO 公民館などは、次世代を担う若手リーダーが不足している。そのためは、特に社会貢献活動に力を入れている若手中心の団体の活動内容を発信し、第三者に評価してもらい機会により、社会との接点を作る必要性がある。

- ・そのために、次年度に SIFE 沖縄プレ大会を実施したい。

県内 6 大学の学生団体が、一同に集まり、普段行っている活動の内容・成果を発表し、その成果(社会的影響力)を競い合う。企業・行政・NPO の方には審査員として入ってもらい、活動の質向上のためのアドバイスをしてもらうことで、スキルアップと関係づくりが期待できる。



▲コンダクターの牧志さん

会場には、応援いただいている企業関係者や、活動している学生の方が見られ、特に報告者のビジョン表明に注目が集まっていました。

基金からの助成を受け渡航した3人の学生は、貴重な体験を通し、確かな収穫を得て帰国した様子でした。寄付頂いたみなさま、協力頂いたみなさま、ありがとうございました。引き続きのご協力をお願いいたします。

(2010年12月14日)

【関連情報】

「沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金」のコンタクターである秋志さんのお話は、ラジオ番組 CSR ヒトワクでも紹介しました。放送はインターネット上のポッドキャストでいつでも聞く事ができます。

CSR ヒトワク

・ 第8回『沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金』2010年11月11日放送

<http://mirai fund.org/?p=852>

■2011 年度

(1) 選考委員

- ・ 国立大学法人琉球大学 産学官連携推進機構特命准教授
産学官連携コーディネーター 宮里大八氏
- ・ 特定非営利活動法人ソーシャルデザインファンド 代表理事 金森康氏
- ・ 沖縄大学 地域研究所特別研究員 稲垣暁氏

(2) 選考結果

助成決定者数： 2 人(応募総数 2)

(3) 助成決定者

島袋 大地 (沖縄大学 人文学部こども文化学科 4 年次)
上原 大明 (沖縄大学 法経学部法経学科 2 年次)

(4) 国内大会出場校とその結果

優勝校： 早稲田大学
準優勝校： 関西学院大学
ルーキー賞： 東洋大学

(5) ワールドカップ開催国およびスケジュール

大会開催日： 2011 年 10 月 3 日～5 日

会 場： マレーシア(クアラルンプール)

一 結 果

1 位:ドイツ
2 位:ジンバブエ
3 位:プエルトリコ
4 位:グアテマラ

10 月 1 日 成田発 クアラルンプール着

10 月 2 日 10/2 自由行動、会場下見

10 月 3 日 【大会 1 日目】 カルチャーフェア & オープニングセレモニー

10 月 4 日 【大会 2 日目】 予選

10 月 5 日 【大会 3 日目】 準決勝・決勝 / 閉会式

10 月 6 日 マレーシアを出発

【報告】

沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金

『SIFE World Cup in マレーシア 視察報告会』

■日時：2011年11月3日(木) 13:00～15:00

■場所：沖縄国際大学厚生会館4階

■参加者数：35名、発表者及び学生スタッフ8名

■主催：沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣実行委員会

■共催：公益財団法人みらいファンド沖縄、沖縄大学 学生十、沖縄国際大学 NPO カタヤピラ

■企画・運営・視察報告：

牧志朝英(まきしともひで 琉球大学4年次 観光産業科学部 産業経営学科、NPO カタヤピラ 2代目代表)

島袋大地(しまぶくろだいち 沖縄大学4年次 人文学部こども文化学科、学生十)

上原大明(うえはらひろあき 沖縄大学2年次 法経学部 法経学科、学生十)



■報告会プログラム

- 13:00 はじめのあいさつ
SIFE とは
- 13:15 学生十のプレゼン披露
- 13:55 休憩
- 14:00 今年の SIFE ワールドカップの報告
- 14:50 今後の展望
- 14:55 おわりのあいさつ
- 15:00 懇親会

■概要

「沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金」は、グローバルな視野をもつ、沖縄の次代を担う人材を育成することを目的としています。世界約40カ国の大学生 NPO の活動の社会的意義や経済効果を発表し、評価される場である SIFE ワールドカップ。このワールドカップへの参加・視察を希望する学生に対し、本基金に寄せられた寄付金から、その移動費を助成しています。今年は2名の学生に助成をし、彼らは10月3日～5日にマレーシア

で開催された世界大会を視察してきました。視察を終え帰国した2人が、本基金コンダクターである牧志朝英さんと協力し、11月3日の視察報告会を開催しました。

報告会の前半は、沖縄大学の学生団体「学生+」による、模擬プレゼンテーションがありました。後半は、助成を受けた学生が、今年のワールドカップ視察を通して感じたことや学んだことの報告がありました。

2回目の助成を終えた本基金。学生のネットワークも深まり、今後の広がりを感じた報告会となりました。

■詳細

SIFE とは

<沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金

コンダクター 牧志朝英さん>

本基金コンダクターの牧志さんより、SIFEの概要や沖縄でのSIFEの取り組みの説明がありました。また、SIFEに取り組もうと思ったきっかけと、彼が抱く沖縄の将来像が語られました。



▲基金コンダクター 牧志朝英さん

*** 牧志さんのコメント ***

沖縄の若者が、沖縄県民の一人一人の応援で海外へ出て、世界にひらかれた沖縄を実現するために活動する。そして、その経験と知識を沖縄に還元するしくみをつくっていききたい。

SIFE 国内大会プレゼンテーション

<沖縄大学 学生+メンバー>

2011年7月1日(金)・2日(土)の二日間、東京で「SIFE Japan 国内大会 2011」が開催され、沖縄より沖縄大学の学生団体学生+ (プラス) が出場しました。学生+は、進学や就職の現実に向き合っている、離島の中高校生との語り合いの場をつくる『離島カタリ場』活動を行っています。

そのメンバー5人によるプレゼンテーションが、本番と同じ制限時間、同じ資料のもと披露されました。【プレゼン 24分・質疑応答 10分】



▲SIFE 日本大会本番さながらの発表をする学生+メンバー

SIFE ワールドカップ 2011 の報告

(沖縄大学 学生+ 島袋大地さん、
沖縄大学 学生+ 上原大明さん)

後半は、「SIFE World Cup 2011 視察費助成プログラム」の助成を受けた学生2人が、マレーシアで開催されたSIFE ワールドカップについて報告を行いました。

報告の初めに、SIFE ワールドカップダイジェスト版の動画が流れ、世界37カ国から多くの学生がマレーシアの会場に集まった様子がうかがえました。また、SIFE ワールドカップの日程と開催されたイベントの説明、今年の結果発表のほか、視察から得た経験と学び、今後の目標設定などの報告がありました。



▲グアテマラチームのプレゼンテーション（視察者より提供）

・よいチームはプレゼンで、映像とタイミング良く発表する力を鍛えていた。



▲マレーシア視察の報告をする島袋大地さん

SIFE World Cup 2011 スケジュール

- ◆1日目 10月3日（月）
Culture Fair [参加者による国際文化交流]
Opening Ceremony [オープニングセレモニー]
- ◆2日目 10月4日（火）
Opening Round Competition [予選]
Special Session [特別講演]
- ◆3日目 10月5日（水）
Semi-Final round Competition [準決勝]
Final Round Competition [決勝]
Final Round Awards Ceremony [授賞式]

SIFE ワールドカップ 2011 の結果

- 1位) ドイツ GERMANY
- 2位) ジンバブエ ZIMBABWE
- 3位) プエルトリコ PUERTO RICO
- 4位) グアテマラ GUATEMALA

・Culture Fair では、日本ブースに被災地向けのメッセージを書いてもらう紙を用意したが、参加者から予想以上のメッセージをもらい、感動した。
・イベント終了後、会場内のいたるところで見られたごみの放置。片づける習慣（美德）が身につけているのは日本だけなのだろうか、と考えさせられた。
・参加チームが1日目にくじを引いて、1ブロック（5チーム）の中、上位2チームが予選通過。

・ドイツチームの取り組みは、「対象者が自立するまで支援した」ことが、高い評価につながったのではないかと。
・諸外国は大学の支援がある、大学の授業としてSIFEがあるなど、日本との環境の違いがみられた。
・諸外国は協賛企業が多い。SIFEに関わることは就職に有利であり、多くの企業が注目している。
・多くの諸外国では、学生によるSIFEの取り組みに、大学の教授がついている。
・現在、日本におけるSIFE参加大学は10～13校程度だが、来年は20校の参加を目指して取り組んでいきたい。



▲マレーシア視察の報告をする上原大明さん

<質疑応答>

- Q. クライテリアの変更によって、プロジェクトの分野に変化が見られたか。
A. アフリカ系、環境、ゴミ問題が多かった気がする

る。焦点を当てたプロジェクト、量より質に変わってきているように思える。 など

質疑応答のあと、本基金のアドバイザーボードであり、昨年に引き続き今年も SIFE ワールドカップを視察された、琉球大学特命准教授・宮里大八氏による講評がありました。

*** 宮里氏のコメント ***

- ・自分たちの活動に何が足りなかったかを分析したうえで発表すべきだった。
- ・今までは、先進国が上位に並んでいた。しかし今年は新興国が以前よりまして上位に入っていた。これは、現場で課題を実際に感じ、経験した後者のほうが評価された結果なのではないか。

今後の展望

(沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金 コンダクター 牧志朝英さん)

最後に、沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金のコンダクターである牧志さんより、今後の展望と、本基金の状況報告がありました。

*** 牧志さんコメント ***

沖縄に SIFE ワールドカップを誘致するために乗り越えるべきハードルはたくさんあります。沖縄の大学が SIFE 日本代表になり、さらにワールドカップでベスト4 に入ること。沖縄でワールドカップを開催するために、会場などのインフラを整えることなどです。私たち沖縄の学生は未熟であり、世界に通用するようなレベルに達するまでにまだまだ時間がかかるかもしれません。しかしながら、人材育成とは5年、10年のスパンで時間が掛かるものだと思います。

沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金の主旨にご賛同頂ける方は、ぜひ今後とも長い目で暖かなご支援をいただけると幸いです。

会場には、県内外からお越し下さった一般の支援者をはじめ、「Act!」や「Shiny」といった学生の団体（琉球大学、沖縄国際大学、沖縄大学）からの参加もあり、懇親会でも意見交換が頻繁に行われていました。



▲懇親会の様子（沖縄国際大学厚生会館）

本基金へ寄付いただきましたみなさま、協力いただいたみなさま、ありがとうございます。コンダクターの牧志さんをはじめ、助成を受け渡航した2人は、早くも来年の SIFE 出場に向けて、新しい団体を巻き込み、ブラッシュアップしながら活動を続けています。今後も彼らの取り組みに、どうぞご期待ください。引き続き、ご支援・ご協力をお願い申し上げます。

(2011年11月21日)

【関連情報】

- ・「SIFE Japan 国内大会 2011 報告会」開催
<http://mirai fund.org/?p=2924&cat=12>
- ・「SIFE ワールドカップ 2011 視察費助成」について
<http://mirai fund.org/?p=2658&cat=12>
- ・ラジオ番組「NPO ヒトワケ (7月放送)」 学生団体特集
<http://mirai fund.org/?p=2372>

■2012 年度

(1) 選考委員

- ・ 国立大学法人琉球大学 産学官連携推進機構特命准教授
産学官連携コーディネーター 宮里大八氏
- ・ 特定非営利活動法人ソーシャルデザインファンド 代表理事 金森康氏
- ・ 沖縄大学 地域研究所特別研究員 稲垣暁氏

(2) 選考結果

助成決定者数： 1 人(応募総数 2)

(3) 助成決定者

外間有里 (琉球大学 法文学部人間科学科 3 年次)

(4) 国内大会出場校とその結果

優勝校： 早稲田大学

準優勝校： 京都大学

第 3 位： 兵庫県立大学

(5) ワールドカップ開催国およびスケジュール

大会開催日： 2012 年 9 月 30 日～10 月 2 日

会 場： アメリカ合衆国(ワシントン DC)

一 結 果

1 位:アメリカ合衆国
2 位:エジプト
3 位:インド
4 位:ジンバブエ

9 月 28 日 アメリカ着 観光

9 月 29 日 観光&早稲田大学サポート

9 月 30 日 【大会 1 日目】 カルチャーフェア & オープニングセレモニー

10 月 1 日 【大会 2 日目】 予選

10 月 2 日 【大会 3 日目】 準決勝・決勝 / 閉会式

【報告】

沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金

『SIFE World Cup in ワシントン DC 視察報告会』

■日時：2012年11月12日(月) 19:30～21:00

■場所：琉球大学 産学官連携推進機構2階

■参加者数：25名、発表者及び学生スタッフ6名

■主催：SIFE 沖縄チーム

■協力：公益財団法人みらいファンド沖縄

■企画・運営・視察報告：

外間有里（ほかまゆり 琉球大学3年次 法文学部人間科学科、学生観光振興プロジェクト）

砂川龍三（すながわりゆうぞう 沖縄国際大学1年次 総合文化学部英米言語文化学科、WYUA）

島袋大地（しまぶくろだいち 沖縄大学教育専攻科）



■報告会プログラム

19:30 開会 / What's SIFE (SIFE 大会概要説明)

19:40 国内大会のプレゼンテーションの様子

20:05 世界大会のプレゼンテーションの様子

20:15 大会に参加することを通して

20:45 Next Stage (2013年に向けて)

質問タイム

21:00 終了

■概要

「沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金」は、グローバルな視野をもつ、沖縄の次代を担う人材を育成することを目的としています。世界約39カ国の大学生NPOの活動の社会的意義や経済効果を発表し、評価される場である SIFE ワールドカップ。このワールドカップへの参加・視察を希望する学生に対し、本基金に寄せられた寄付金から、

その移動費を助成しています。今年は1名の学生に助成をし、9月30日～10月2日にワシントンDC（アメリカ合衆国）で開催された世界大会を視察してきました。助成を受け派遣された学生の他、国内大会に参加した学生と、2011年本基金の助成を受け派遣されたOBと協力して、今回のワールドカップ視察報告会が開催されました。

報告会では、国内大会・世界大会の様子を報告するだけでなく、沖縄SIFEチームの活動や今後計画している取り組みの紹介もありました。また、県外大学よりSIFEでつながった3人の学生がゲストでかけつけ、県内外で大学の枠を超えた交流が深まっている様子が見えがえしました。

最後に、みらいファンド沖縄代表理事の小阪より、今年度で3回目の助成を終えた「沖縄学生SIFEワールドカップ派遣支援基金」基金の終了を通知いたしました。

■詳細

SIFE 大会概要説明

<沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金 2012年助成者 外間有里さん>

はじめに、外間有里さんによるSIFE大会概要の説明がありました。今年は、沖縄より3人の学生がワシントンDCで行われた世界大会を視察しましたが、外間さんは、「沖縄学生SIFEワールドカップ派遣支援基金」より助成を受け、渡航した学生です。



(▲SIFEの概要を説明する外間有里さん)

SIFE 国内大会プレゼンテーションの様子

引き続き、SIFE国内大会に出場した琉球大学のプレゼンテーションが動画で紹介されました。



(▲琉球大学のプレゼンテーションを動画で紹介)

今回、琉球大学は「学生観光振興プロジェクト」と「世界若者ウチナーンチュ連合会」の活動を取り上げ、それぞれの成果や社会に対する影響を発表しました。

SIFE 世界大会プレゼンテーションの様子

会場には、世界大会で入手した各国のアンニュアルレポートや大会の場で交流した世界の学生たちとの写真が掲示されていました。



2012年世界大会の結果と、スケジュールは以下の通り。

SIFE ワールドカップ 2012 の結果

- | | | |
|-----|-------|---------------|
| 1位) | アメリカ | UNITED STATES |
| 2位) | エジプト | EGYPT |
| 3位) | インド | INDIA |
| 4位) | ジンバブエ | ZIMBABWE |

SIFE World Cup 2012 スケジュール

- ◆1日目) 9月30日(日)
Culture Fair [参加者による国際文化交流]
Opening Ceremony [オープニングセレモニー]
- ◆2日目) 10月1日(月)
Opening Round Competition [予選]
Special Session [特別講演]
- ◆3日目) 10月2日(火)
Semi-Final round Competition [準決勝]
Final Round Competition [決勝]
Final Round Awards Ceremony [授賞式]

大会に参加することを通して

沖縄で SIFE 視察報告会を行うということを知り、県外の大学から久保唯香さん(早稲田大学・3年次)、河野翔太さん(滋賀大学・3年次)、一色えりなさん(兵庫県立大学・3年次)がゲストとしてかけつけてくださいました。



(▲【左より3人】県外大学よりゲストと【右】島袋さん)

彼らも所属する大学より、SIFE メンバーとして国内・世界大会に出場経験のある学生。沖縄から視察をしたメンバーを加えた全員のコメントがありました。

「沖縄・日本のことをさらに学び、それをしっかり海外でも伝えられるようになりたい。」「日本のプロジェクトも世界と差がない。自分たちのやっている活動に誇りをもち、継続した取り組みを行っていきたい。」「今後も、他大学との連携をとっていきながら、次世代への継承も積極的に行うつもりだ。」等の意見がありました。

Next Stage (2013年に向けて)

(沖縄国際大学1年次 砂川龍三さん
世界若者ウチナアンチュ連合会)



次に、沖縄より外間さん、島袋さんと一緒に渡米し視察を行った砂川さんより、次年度に向けた意欲と活動計画が発表されました。

「沖縄県より、これまでは沖縄大学、琉球大学、沖縄国際大学の3大学しかエントリーしなかったが、今後は、名桜大学、沖縄キリスト教学院大学にも SIFE の活動を広めていきたい。」「これまでに培った県内外の大学間ネットワークを活かし、2013年3月には関西地区での宿泊研修を行う」等の報告がありました。

また、これまで SIFE (サイフ) と親しまれていた名称が、2012年のワールドカップで enactus (Entrepreneurial Action Us) へ名称変更となったとの報告もありました。



(▲新しい名称 enactus のおそろいTシャツでアピール)

会場からは、「沖縄から SIFE 国内大会に出場できるのは琉球大学だけか。他の大学は参加しなかったのか。」との質問がでました。それに対し、「国

内大会に出場する大学の数に制限はない。残念ながら、今年は琉球大学しか出場がかなわなかった。他の大学ももっと積極的に参加して欲しい。」との回答がありました。



(▲他大学の学生や社会人が集まった報告会の会場の様子)

沖縄学生 SIFE 支援基金終了について

(公益財団法人みらいファンド沖縄 代表理事 小阪亘)

最後に、みらいファンド沖縄代表理事の小阪より、3年間続けてきた「沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金」の終了の報告と、本報告会の感想が述べられました。



「2010年に国内大会審査員として関わったが、日本チームのプレゼン力が明らかに向上した。3年間連続して沖縄学生に対する助成ができたことは、非常に良かった。」との見解を述べました。また、「世界大会で視察したことを報告会で沖縄学生にも還元しているのを受け、本基金は無駄ではなかったと実感した。基金としては終了するが、今後も頑張ってもらいたい。」と締めくくりました。

本基金へ寄付いただきましたみなさま、ご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。基金コンダクター不在の報告会となりましたが、国内大会参加者、世界大会視察者がうまく連携しあい、SIFE (enactus) 沖縄チームを一層活性化していこう！という決意が表れた報告会でした。

今後も、次世代へしっかりと引き継ぎを行い、県外大学との交流・連携も深めていくと宣言した彼らに、強い期待とエールを送ります。

基金は終了となってしまいましたが、彼らの活動は続きます。今後とも温かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。

(2012年12月20日)

【関連情報】

(▲報告会の案内チラシ)

- ・「沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金」について
http://mirairfund.org/?post_type=kikin&p=2085
- ・「SIFE ワールドカップ 2012 結果発表」
<http://enactus.org/worldcup/world-cup-2012-results/>
- ・「SIFE ワールドカップ 2012 視察費助成」について
<http://mirairfund.org/?p=5581>